

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	共に支え、安心で思いが表現できる地域社会をつくる	静岡県牧之原市
アイデア名 (注1) (公開)	対話により行動を起こす力をつける地域リーダー育成プロジェクト		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	CLIP		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	121 名		
代表者情報	氏名 (公開)	池ヶ谷 祐太	
メンバー情報	氏名 (公開)	澤島 千温、絹村 亜佐子、武田 てるみ 牧原 ゆりえ、佐藤 淳、大石 隆、 大石 光良、田中 美紗子、宮崎 真菜	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【提案背景】

私たちを取り巻く社会環境は早いスピードで変化し、市民のニーズは多様化、高度化しているため、行政主導で市民ニーズに応えることよりも、地域のことを一番知っている市民の主体的な活動を支援することで市民ニーズが叶えられるものとする。これからのまちづくりにおいては、主体的に行動する人材を育て、市民力を向上させることが重要となる。次代を担う高校生が、学校内外の多様な人との対話をとおして、様々な「学び」や「気付き」を得て、地域の課題を自分事とし考え、その思いの実現に向け、一歩を踏み出すことができる力を育む。

牧之原市では、これまで市民参加と協働の取組みを行ってきた。その中で、若者の地域への定着を図るため、2015 年度から首長部局が主導し、市内の県立高校（榛原高校、相良高校）等と地域が連携した「地域リーダー育成プロジェクト」を行っている。

「地域リーダー育成プロジェクト」は、高校生が、同世代の仲間や大人との出会い、地域について対話をするにより、地域を理解し愛着を深めることで、より地域に誇りを持ってもらうとともに、地域の課題解決の担い手としての意識と能力を育成することを目的としている。

＜ファーストステップ 2015-2016＞ 対話の基礎力を身につける

2015 年度 対話を学ぶ

プロのファシリテーターの協力で、高校生と地域の大人の対話の場をつくり、対話の効果を学ぶ。

2016 年度 運営組織の立ち上げ、実践

自主性をより育むため、市民ファシリテーターと高校生（有志）、教師、市職員らによる「学び合いの場デザイン会議」を立ち上げ、地域の大人とワークショップのデザインを考え実践。

プロのファシリテーターによるファシリテーション研修を、牧之原市民の高校生が通う市外の県立高校で実施。

＜セカンドステップ 2017＞ 対話を授業の一環として位置づけ、学び合いの場での実践を通じて成果を発表する。

市民ファシリテーターによる「対話を学ぶ授業」が、榛原高校 1 年生の授業として位置づけられ、ファシリテーションやグラフィックを学ぶ。その後、実践の場として市民や市内在勤の大人たちと対話をする「学び合いの場」を開催し、

「牧之原市のまちづくり」のテーマについて対話を重ねる。

教育環境

雇用環境

住環境

思いが実現できる地域づくり



ファシリテーションや
グラフィックも実践！



【提案概要】

地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、課題やニーズが多様化する中で、地域を思い、考え、行動できる人材を増やすことが地域の力になっていくものとする。

進路選択などで自身の生き方を考える高校時代の経験は、これからの生き方をつくっていく中で大きな影響力を持つものとする。高校時代に地域と関わり、地域への理解や愛着を深めることで、将来の市に戻り地域の担い手となり市民力のアップが期待される。

「学び合いの場」に参加した高校生と市民が、対話を通して生まれたプロジェクトの実践を通し、思いが実現に向けて踏み出していくことを体感することで、行動を起こす力をつけるプロジェクトを提案する。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

1.「学び合いの場」のテーマ

総合計画の重点戦略に掲げる 4 つのテーマで対話を重ねた。

- ・教育環境
- ・雇用環境
- ・住環境
- ・思いが実現できるまちづくり



2.OST（オープンスペーステクノロジー）を用いた対話

これからは自分で考え行動する主体性が求められる。

自分で考え、仲間とつながり答えをつくる姿勢

大事にするため、OST の手法をメインとして実施。

※OSTとは、大まかなテーマに沿って、参加者が課題を提案し、自主的にスケジュールと話し合いの参加形態を決め進めていく手法

3.「学び合いの場」の軌跡

自分の思いに耳を傾ける時間をとる。そして、自分にとって大切に暮らしの中に実現したいことを、地域の大人と出会い、勇気を持って対話することに挑戦する。対話を通じて、身の回りの環境や地域がより良くなるためにやってみようこと（プロジェクトの種）を見つけ、仲間や応援してくれる人と一緒に、その種を蒔き育てていくことで、一つ一つ地域の課題を解決し、みんながより幸せに安心して暮らせる地域の実現を目指す。



① 参加者同士の関係性づくり（8/14）

大人と高校生による対話の場で「大人はサポート、アドバイスをするのではなく、高校生と対等な立場で参加」というグラドルールを決める

② 主体的に話す、聞く、関わることを学び、体験する（8/23）

大人と高校生 100 人が参加し、➡「私たちの思いを実現するために、やってみようと思うことは何か」という大きなテーマに関して、各自がはなしてみたいテーマを考え発表し、ともに学びたい人、貢献したい人が集まる場で対話。同時に OST の考え方や手法も学ぶ。

③ 振り返り（9/14）

➡「前回の感想を共有」「4 つのテーマについてどんな可能性

があるか」ワールドカフェで話し合い安心して話ができる「場」や「人との関係性」が求められていることを共有。



※ワールドカフェとは、少人数のグループで対話を行い、グループを組み替えながら話し合いを進展させて相互理解を深める手法

- ④ 再度「主体的に話す、聞く、関わる」を高校生のファシリテーションでやってみる（10/25）
 - ➡各自「やってみたい」「話してみたい」と思うこと（プロジェクトの種）を興味のある人同士でさらに深め、最終的に15の種が発表された。
- ⑤ プロジェクトの種から具体的なプロジェクトを作る（11/25）

15種の中から主体的に取り組みたいものについて具体的なイメージに落とし込み12のプロジェクトが誕生。社会を自分でよくするためには、プロジェクトを通して働きかけていく必要があることを学ぶ。
- ⑥ プロジェクトを深める（12/15）

取り組むプロジェクトとして12個を具体的にまとめる

4.「15のプロジェクトの種」

まちの高校生を全て集めて対話のサロンを開く/学生と地域のつながりを深める/外国人と高校生の交流の場を設ける/1エリアを英語しか使えないまちにする/地域医療について医療講演をする/地域の魅力を発信/茶摘み体験を目玉に県外からの観光客を呼び込む/海外に行き外国人を連れて来て観光地を案内/市民ファシリテーター（CLIP）が儲ける方法を考える/初めて逢う人と気軽に話せるようになる環境をつくる/共通の意見を持つ人で団結し、何かを実現する/校則を変える/何かしてみたいと思ったときに、その何かを探せる情報提供システムをつくる/地域のママのお手伝いをする/みんなから出た「探求型」の問いについて、探求する場をつくる



5.これから実践していく4つのプロジェクト

12のプロジェクトのうち、主体的なプロジェクトリーダーや、支援するステークホルダーが明確で次年度に実現できる可能性の高いものをメインメンバー*1で選定。

*1 学び合いの場デザイン会議（高校生28名、教員2名、市民ファシリテーター4名、協働まちづくり専門監）

- PROJECT1 外国人と高校生の交流の場を設ける
- PROJECT2 学生と地域のつながりを深める
- PROJECT3 地域のママのお手伝いをする
- PROJECT4 地域医療について理解を深めてもらうような医療講演をする



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

1. 実現までの流れ



【前提】

8月から12月まで6回の学び合いの場を開催。この学び合いの場に大人も加わり、高校生の人づくりとともに市の総合計画の重点戦略をテーマに、地域課題の解決に向けた対話を行ってきた。

【今後】

・プロジェクトの整理

プロジェクトメンバーで、実現に向けてプロセスの整理と必要な予算、人材について検討。

・発信

今年度の成果報告や検証として平成30年2月に開催する「学びを通じた地域創生コンファレンス」で、4つのプロジェクトの実現に向け、それぞれの課題オーナーを中心に、これまでの経緯や事業実施について発信。利害関係者の自発的な参加を促していく。

・実践

プロジェクトの具現化に向けたひとつの方法として、地域リーダー育成プロジェクトを市の総合計画の重点プロジェクトとして考え、具体的な取組として実施計画に位置付けるなど、市民主導での推進を図っていくことも検討していく。また、プロジェクトの周知などについて市として支援していく。

2. 各プロジェクトについて

以下の4つのプロジェクトの目指す姿と共に、具体化に向かって推進を図る。

PROJECT 1：外国人と高校生の交流の場を設ける



目指す姿 外国人、高校生、大人が繋がり、互いの地域や言葉を知る

主体 海外との繋がりをもつ市内企業、高校生、市民ファシリテーター

参加者 外国人従業員および訪日者、高校生

「茶摘み体験を目玉にして県外から人を呼び込む」プロジェクトと掛け合わせ、市の特産である茶を用いて、外国人と交流を行う。市内企業に勤める外国の方や、富士山静岡空港に降り立つ外国人観光客を、富士山の見える茶畑に招き、茶摘み体験や、茶を飲みながら対話をする。

PROJECT 2：学生と地域のつながりを深める



目指す姿 学生と大人がつながる、地域の人が学校に、高校生が地域に関わる

主体 市民（まちづくり団体役員等）、高校生、

参加者 高校生、市民

榛原高校の文化祭で CLIP の部屋を設置し、高校生と地域の人が自由に対話をする場をつくる。地域の人に学校への関わりを持ってもらい、学生と大人が繋がるきっかけや中学生が進学先としての選ぶきっかけを与えたい。また、より多くの人に CLIP の取組みを知ってもらえるようファシリテーションやグラフィック講座を実施する。

PROJECT3：地域のママの手伝いをする



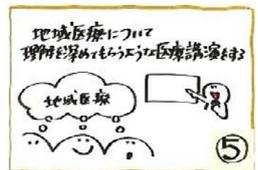
目指す姿 ママが助かり、子どもも協力する人も楽しく過ごす

主体 高校生、市民ファシリテーター

参加者 市民（地域で子育てをする人）、高校生、民間託児事業者

土日・祝日など、保育園や支援センターで子どもを預かってもらえないときに、高校などで、高校生や高齢者が子どもと一緒に過ごし、子育てで大変なお母さんの手助けをする。

PROJECT4：地域医療について理解を深めてもらうような医療講演をする



目指す姿 市民が地域医療について理解を深める

主体 市内の総合病院

参加者 学生、市民、地域の医療・介護従事者

病院へ学生や地域の人を招き、医療従事者との対話を通し、医療の現状や良さを知ってもらい医療への興味を引き出す。また、地域や家族で支え合うことへの理解を深めてもらう。

3.地域リーダー育成プロジェクトの今後

今年度生まれた 12 のプロジェクトを推進していくとともに、新たな地域課題の発掘とそれに対するプロジェクトの検討を行っていく。

榛原高校では、次年度以降も継続して「対話を学ぶ授業」を行い、2019 年度には全生徒が「対話」を学ぶ授業を終了する。

1 年生：ファシリテーションやグラフィック研修。学び合いの場での対話をおしアクションに繋げる。

2 年生：アクション①学び合いの場を通じ、地域の課題解決（プロジェクト）に取り組む。

3 年生：アクション②プロジェクトの更なる推進及び新たな地域課題の解決に取り組む。

卒業後：それぞれの関わり方で、地域づくりに参加。

主体的に行動する市民が育ち「牧之原市の市民力」の底上げが実現。

<他地域への波及>

対話を出発点として地域課題の解決に向けた取組みである。高校生が地域のかかわりの中で、気づき考えてアクションに繋げてことで、想いを実現するために一歩踏み出す行動力を育む。高校生との対話を通し、大人も新たな「気付き」や「学び」を得るとともに、高校生をキーパーソンとして地域の枠を超えた連携をうむことができる。高校生をキーパーソンとした地域課題解決のプロセスとツールとして広げていきたいと考える。

